北海道新聞 29 年 1 月 7 日（朝刊）（室蘭・胆振版）

エンタメ企業設立へ一歩

室蘭出身 渡部さん きょう児童クイズ

室蘭出身で、小樽商大大学院のビジネススクールで経営について学んだ渡部正寛さん(25)が7日10時半から、スーパーアークス室蘭中央店（中央町）で小学生を対象にした室蘭に関するクイズ大会を開く。渡部さんはイベントなどを開くエンターテインメント企業設立を目指しており、「5年以内に室蘭を北海道一熱いマチにして、笑顔を日本中、世界中に広げていきたい」と意気込む。

渡部さんは室蘭栄高卒業後、北海学園大に進み、小樽商大大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（ビジネススクール）で経営管理修士（MBA）を取得。経営について学ぶ中で、エンターテインメント関係の起業を志した。

当面は個人で「地域活性化事業FUNNY（ファニィ）」の屋号でイベントを開催し、ホームページ作成も請け負う。今年夏からは全国をヒッチハイクで巡りながら、各地の名所や特産品に関するクイズをブログで発信する計画で、「若い人に向けて地域の魅力を発信し、興味を持ってもらいたい」と話す。ブログ広告で収入を確保し、2年後の会社設立を目指すという。

エンターテインメント企業の設立を目指してクイズ大会を開催する渡部正寛さん

室蘭でのクイズ大会は活動の第一歩で、小学生を対象に白鳥大橋や測量山など室蘭に関する○×クイズを出題。カレーラーメンやボルタ人形が当たるビンゴ大会も行う。渡部さんは「室蘭の魅力を子どもたちに知ってもらい、室蘭をもっと好きになってもらいたい」と願いを込める。先着30人で、参加費500円。申し込み、問い合わせは渡部さん☎080・6070・3955へ。

（中橋広岳）

北海道新聞 29 年 1 月 11 日（朝刊）（苫小牧・日高版）

まちなか再生 若者の力で

新年度に市 室工大などと連携事業

小樽商科大と室蘭工業大は2017年度、両校の学生がJR苫小牧駅周辺や商店街を歩いて地域の人に話を聞き、活性化のためのアイデアを提案する取り組みを実施する。中心市街地活性化に向けた苫小牧市の産学連携推進事業の一環で、市は「学生の豊かな発想など、若者の力をまちなか再生に生かしていきたい」としている。

室工大の永井真也准教授（政策科学）が2年前、苫小牧市内で学生のフィールドワークを行えないか、市に打診し、実施へ向け調整を進めていた。

両大学は07年から、地域再生に関する授業を履修する学生の実習を合同で行い、大学が所在する室蘭市と小樽市、千歳市などでフィールドワークを行ってきた。学生は、商店街の店主や工場関係者、観光ガイドなどの話を聞いて、地域の課題を共有。学生間で討論を行い、観光客増加やにぎわいの再生に向けた活性化プランを提案する。

苫小牧市まちづくり推進課は、苫小牧駒沢大の学生にも協力を呼び掛けており、「良い提案があれば市の事業にどんどん採用したい」としている。

事業は市がこのほどまとめた「まちなか再生総合プロジェクト（CAP）」のパート3の素案に盛り込まれた。CAPは苫小牧駅周辺の活性化を目的に、市が11年から実施。これまでにココトマやまちなか交流館の開設などを実現してきた。

CAPのパート3は17～19年度の3年計画。

まちなか活性化へ向け室蘭市内を見学する室工大と樽商大の学生＝2014年